12 月号　ごあいさつ

公益社団法人愛知建築士会　名古屋 6 支部 30 周年記念事業

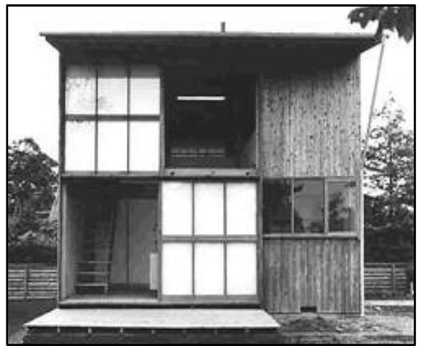
「 なごや建築祭（まつり） 」 に想う！

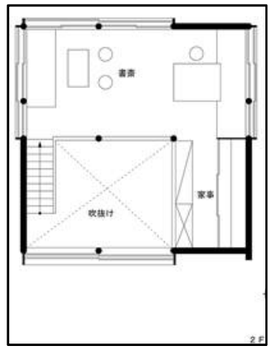
株式会社 山西 あすなろ会顧問 代表取締役社長　西 垣　洋 一

2019 年 8 月 1 日から 12 月 2 日まで、公益社団法人愛知建築士会名古屋 6 支部により**「なごや建築祭」**が開催されました。新しく迎える令和の時代に、“何を残し、何を伝えていくか？” をテーマとし、「なごやええとこ　絵はがき大賞 」・「建前ＬＩＶＥ 建築工法ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ」・「市民と考える名古屋の未来（ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ)」の 3 つの企画を中心に、建築やまち、技術や文化など私たちの暮らしをとりまくモノゴトについて、市民の皆さまと建築士が一緒に考えていけるような「祭り」となっていました。

11 月 23 日若宮大通高架下広場で行われました「建前ＬＩＶＥ」では、微力ながら当社もお手伝いさせて頂き、日本建築の代表的工法である木造軸組の建前（構造躯体の組み上げ）で設計された建築家増沢洵（まこと）氏（1925～90 年）の「最小限住居」が実物大で再現されました（右 参照）。この「最小限住居」は、戦後焼け野原となり焦土化し、極度の資材が不足に陥る中、平屋の住宅が多かった時代に、吹抜けのある 2 階建ての空間を構成、12 本の丸柱の構造、大きな開口部に筋交いを配し、15 坪で、親子 3 人が豊かに暮らせる間取りが実現する「復興住宅」の象徴とも言えるものです。又今日まで続く建築基準法、建築士法、住宅金融公庫からなる戦後住宅システムの原点とも言えるものです。

［増沢洵設計　最小限住居］



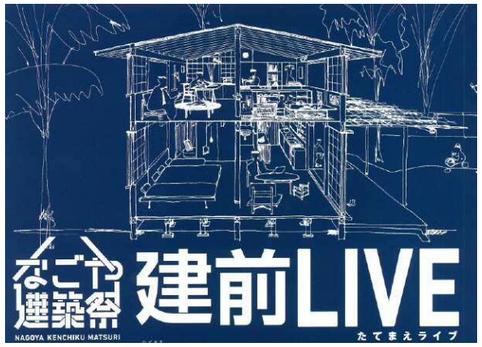


今回私は、「なごや建築祭」を通じ、建築士会の皆様の建築に対する熱い思いに深く感銘を覚えました。又その建築士会の皆様が、現代の住環境との相違、これからの住宅および建築の未来の視座を体験・考える機会の提供の場として、木造軸組工法の住宅を選ばれたことに、木材業界に身を置くものとして、更なる木材の有効利用を促進し、時代の要請でもある都市の木造化・木質化を建築士の皆様と手を携え進めて行かなければならないと決意を新たにしました。

折りしも 2020 年、商業関係・木材関係・設計関係・行政の各団体、学識経験者、賛助会員など愛知県下の産・官・学からなる**「環境都市実現のための木造化・木質化を推進する あいち協議会」**が産声をあげます。当社としましてもこの協議会に積極的に参画し、地域の家づくりの担い手である工務店の皆様と、ＳＤＧｓ環境都市の実現と循環型・低炭素社会の形成（ＥＳＧの実践）を、新しい 2020 年の年に向け邁進して参ります。本年もあすなろ会の皆様には多大なご支援を頂き本当にありがとうございました。来年も変わらぬご愛顧の程、宜しくお願い致します。

2019 年 12 月吉日

なごや建築祭の開催

～新しく迎える令和の時代に何を残し、何を伝えていくか？～

「新しく迎える令和の時代に何を残し、何を伝えていくか？」をテーマに、公益社団法人愛知建築士会名古屋６支部が「なごや建築祭」を開催。「なごやええととこ　絵はがき大賞 」・「建前ＬＩＶＥ 建築工法ワークショップ」・「市民と考える名古屋の未来」の 3 つの企画からなる。
㈱山西は建前ＬＩＶＥで使用する木造建築物構造材をプレカットにて設計・加工し、協賛提供。